



令和3年3月13日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第36号

第18回蒲刈中学校卒業証書授与式 学校長 式辞

豊かな自然と素晴らしい歴史を有するこの蒲刈島，下蒲刈島にも，一雨ごとに春の足音を感じられるようになりました。この春の到来は，卒業するみなさんが夢や希望に向かって巣立っていくことを後押しし，新しい門出を祝っているようです。

願わくば来賓や地域の方々をお招きして卒業式を行いたかったのですが，昨年度と同様に参加人数を抑えて行うことになりました。このような状況ではありますが，多くの保護者の皆様のご臨席を賜り，心から厚くお礼申し上げます。

ただ今，卒業生全員に卒業証書を授与いたしました。卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。義務教育の9年間を立派に修了し，中学校の3年間で更にたくましく成長するとともに，それぞれの新しい道に進もうとしている皆さんを心から祝福します。

昨年3月頃から，世界中は新型コロナウイルスによって今までに経験がないような事態になっています。今後も世の中の変化が激しいだけでなく，未曾有の出来事も起こるかもしれません。そのような状況ですが，蒲刈中学校は今年度下蒲刈中学校と統合し，新しい仲間と一緒に新しいスタートしました。いろいろな行事を自粛したり，延期したりしたこともありますが，生徒の皆さんや保護者の皆様はご理解・ご協力をしていただきました。しかし，このあとの送辞や答辞では，中学校生活の思い出をたくさん語ってほしいと思います。また，本校は少人数のため，生徒一人一人の役割は大変多く重要ですが，今年度も本当によく頑張りました。統合一年目の難しさもあったと思いますが，逆に仲間が増えたことなどを励みにしていました。その頑張りは自信や誇りに繋がると思います。

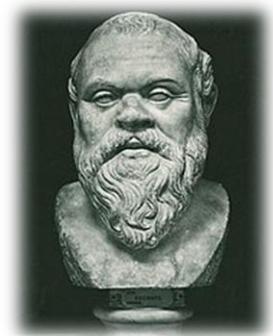
さて，蒲刈中学校を巣立っていくみなさんへ中学校最後の宿題を出したいと思います。それは「幸せになってください。」という宿題です。

この宿題には色々な答えがあると思います。また，その答えは人それぞれです。

大切なことは，本当に幸せな人生とは何かを常に自分に問いかけながら生きることです。最初に述べたように，今後も変化の激しい世の中であることは間違いありません。更に日本国内だけでなく，世界を意識することも多くなります。

だからこそ，自分自身を見失わないようにして，幸せになってほしいのです。そのヒントとなる言葉を紹介します。それは，古代ギリシャの哲学者 ソクラテスの名言の1つにあります。

「よりよく生きる道を探し続けることが，最高の人生を生きることだ。」という言葉です。



この言葉はソクラテスの考え方の基になっていて、「現状の自分で満足することなく、探求心をもって探し続けることで、よりよい目標や望みを見つけることができる」という意味です。また、向上心をもって生きなければ、衰退してしまうという意味合いも含まれています。

とてもポジティブで、チャレンジ精神に満ちた気持ちになります。これからの社会をたくましく、そして、幸せに生きていく卒業生の皆さんにピッタリの言葉だと思います。ポジティブ、そして、チャレンジを忘れないようにしてください。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は本当におめでとうございます。行事などの自粛や縮小もありましたが、子どもたちは大きく、たくましく成長してくれました。これもひとえに、お子様への深い愛情とご指導あつてのことと思います。また、学校に対するご理解とご協力のお陰であり、深く感謝いたします。

卒業生の皆さん、これからも「最高の人生」に向かって頑張ってください。何年か後に、更に成長した姿を見せてください。先生たちはそれを楽しみにしています。

皆さんの前途が幸多いことを祈り、私の式辞といたします。

令和3年3月13日

呉市立蒲刈中学校長 柿林 浩彦

3年生を送る会

3月2日（火）の午後、3年生を送る会を行いました。この送る会は、生徒会執行部5名（丸山寧々さん、小寺飛翔くん、沖原心実さん、小寺壘偉くん、兼田渚彩さん）が中心となって企画・運営しました。3年生と在校生が楽しく過ごせるよう、カラーリングをしたり、メッセージを書いた色紙や花を渡したりしました。最後は、心を込めて作った花道で3年生を送ることができました。全員が本当に楽しい時間を過ごすことができ、中学校での思い出がまた1つ増やすことができました。

